

(案)

精神保健福祉士養成課程における 教育内容等の見直しについて

○赤字…第7回検討会以降に追加・修正した箇所

○青字…現行の規程を見直す箇所

目次

I	新たな教育カリキュラム等の内容	P2
II	教員	P52
III	施設設備	P62
IV	実習・演習	P72
V	通信課程	P90
VI	情報公開	P98
VII	国家試験の受験資格における実務経験の範囲	P102
VIII	施行期日	P106

I 新たな教育カリキュラムの内容

2

I - ① 新たな教育カリキュラム

1. 今後の精神保健福祉士に求められる役割

精神保健福祉士制度の施行から現在に至るまでの間に、「入院医療中心から地域生活中心へ」という施策の転換や障害者自立支援法の施行など、精神保健福祉士を取り巻く環境は大きく変化しており、今後の精神保健福祉士に求められる役割としては、

- ① 医療機関等におけるチームの一員として、治療中の精神障害者に対する相談援助を行う役割
- ② 長期在院患者を中心とした精神障害者の地域移行を支援する役割
- ③ 精神障害者が地域で安心して暮らせるよう相談に応じ、必要なサービスの利用を支援するなど、地域生活の維持・継続を支援し、生活の質を高める役割

なお、

- ④ 関連分野における精神保健福祉の多様化する課題に対し、相談援助を行う役割についても求められつつある。

2. 今後の精神保健福祉士に必要とされる知識及び技術

今後の精神保健福祉士の養成課程においては、精神障害者の人権を尊重し、利用者の立場に立って、これらの役割を適切に果たすことができるような知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められており、具体的には、

- ① 医療機関等における専門治療の特徴を踏まえ、関係職種と連携・協働する専門的知識及び技術

3

- ② 精神障害者の地域移行の重要性、地域移行を促進するための家族調整や住居確保など、地域移行に係わる専門的知識及び技術
- ③ 精神障害者に対する包括的な相談援助を行うための、地域における医療・福祉サービスの利用調整
- ④ 就職に向けた相談・求職活動等に関する専門的知識及び技術
- ⑤ ケアマネジメント、コンサルテーション、チームアプローチ、ネットワーキング等の関連援助技術などを実践的に教育していく必要がある。

また、

- ⑥ 精神障害者の社会復帰に関する行政、労働、司法、教育分野での相談援助活動
 - ⑦ 各々の疾患及びライフサイクルに伴う生活上の課題
- などの基礎的な知識も教育していく必要がある。

(なお、生涯研修の観点から、スーパービジョンの意義及び目的をより重視した教育を行うとともに、養成課程と卒後研修を有機的に結びつけたスーパービジョン体制を構築することも必要である。)

3. 以上を踏まえ、実践力の高い精神保健福祉士を養成する観点から以下のような視点で、教育カリキュラムの見直しを行うこととする。

【時間数】

- 一般養成施設については、現行の1年以上という修業年限を前提としつつ、教育内容の充実により教育時間数についても1,200時間まで拡充を図る。
- 短期養成施設については、現行の6月以上という修業年限を前提としつつ、教育時間数は一般養成施設の教育カリキュラムの見直しを踏まえて、720時間まで充実を図る。

4

【教育カリキュラムの構成】

○ 教育カリキュラムの構成は、共通科目(社会福祉士)の枠組みに準拠しつつ、精神保健福祉士に特化する知識と技術の科目群(以下の③)を加えることにより、精神保健福祉士に必要とされる科目の明確化を行い、教育すべき内容を網羅する。

- ① 「人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法」
- ② 「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」
- ③ 「医療と協働・連携する相談援助の理念と方法に関する知識と技術」
- ④ 「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」
- ⑤ 「サービスに関する知識」
- ⑥ 「実習・演習」

○ なお、

- ・ 「人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法」に該当する専門科目については、精神保健福祉士に求められる知識・技術のうち、対象者の精神的健康課題の理解に関する教育として、現行の「精神医学」と「精神保健学」の教育内容の充実を図りながら、知識・技術の⑥の一部(教育)と⑦に対応するものとして、
- ・ 「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に該当する専門科目については、精神障害者をはじめとする障害者等に対する相談援助の基礎的な知識と技術の理解に関する教育として、社会福祉士と共通する基礎教育と、精神保健福祉士の専門基礎教育との内容に分けて、

5

- ・ 「医療と協働・連携する相談援助の方法に関する知識と技術」及び「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に該当する専門科目については、精神保健福祉士の教育の中核的な科目として、役割の①、②、③と知識・技術の①、②、③、⑤に対応を図りながら、精神障害者の相談援助及び地域移行から地域生活支援まで一体的に教育できるようにし、更に精神保健福祉士の援助活動を支える理論としての精神科リハビリテーションについて、援助技術との統合を図りながら理論と知識・技術との相互の教育効果を高めるように、
- ・ 「サービスに関する知識」に該当する科目については、地域移行及び地域生活支援に係る知識・技術として、役割の②、③、④と知識・技術の②、③、⑥(教育を除く)の対応と、知識・技術の②の一部(住居確保)及び④の一部(就労支援)に対応するものとして、
- ・ 「演習・実習」については、上記の講義系科目との連動を配慮しながら、役割の①から③までと、知識・技術の①から⑤までの対応を図りながら、役割と知識・技術を実践的に習得できるものとして、

位置付け、それぞれ具体的に科目を設定する。

【教育内容(シラバス)】

- 教育内容(シラバス)については、国家試験によって精神保健福祉士として必要な知識及び技能が評価されることを踏まえ、詳細な内容までは示さないこととし、それらについては、出題基準の中で網羅的に反映させる。

6

【大学等における指定科目・基礎科目】

- 大学等における指定科目・基礎科目については、科目名が一致していれば足りることとされている現行の仕組みを基本的には維持するが、特に実習・演習に関して教育内容や時間数にばらつきがあるとの指摘があることを踏まえ、実習・演習の教育内容や時間数、教員要件等について養成施設と同等の基準を満たさなければならないこととする。
- また、指定科目・基礎科目の科目名について、現行と同様、一定の読替の範囲を設定する。

7

新たな教育カリキュラムの全体像

	一般養成施設	短期養成施設	大学等	
	時間	時間	指定科目	基礎科目
共通科目 (420h)				
人体の構造と機能及び疾病	30		○	○
心理学理論と心理的支援	30		○	○
社会理論と社会システム	30		○	○
現代社会と福祉	60		○	○
地域福祉の理論と方法	60		○	○
福祉行財政と福祉計画	30		○	○
社会保障	60		○	○
低所得者に対する支援と生活保護制度	30		○	○
保健医療サービス	30		○	○
権利擁護と成年後見制度	30		○	○
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ※1	30		○	○
専門科目 (390h)				
精神疾患とその治療	60	60	○	
精神保健の課題と支援	60	60	○	
精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ ※2	30		○	○
精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ	30	30	○	
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	120	120	○	
精神保健福祉活動を支える制度・サービス	60	60	○	
精神障害者の生活支援システム	30	30	○	
演習・実習 (390h)				
精神保健福祉援助演習Ⅰ ※3	30		○	○
精神保健福祉援助演習Ⅱ	60	60	○	
精神保健福祉援助実習指導	90	90	○	
精神保健福祉援助実習	210	210	○	
合計	1,200	720	22科目	13科目

大学等においては三科目のうち一科目

※1…新たに共通科目に拡大する科目 ※2、3…読み替え可能科目

(参考) 現行の教育カリキュラム

平成21年度～	一般養成施設	短期養成施設	大学等	
	時間	時間	指定科目	基礎科目
共通科目 (390h)				
人体の構造と機能及び疾病	30		○	○
心理学理論と心理的支援	30		○	○
社会理論と社会システム	30		○	○
現代社会と福祉	60	60	○	
地域福祉の理論と方法	60	60	○	
社会保障	60		○	○
低所得者に対する支援と生活保護制度	30		○	○
福祉行財政と福祉計画	30		○	○
保健医療サービス	30		○	○
権利擁護と成年後見制度	30		○	○
専門科目 (390h)				
精神医学	60	60	○	
精神保健学	60	60	○	
精神科リハビリテーション学	60	60	○	
精神保健福祉論	90	90	○	
精神保健福祉援助技術総論 ※	60		○	○
精神保健福祉援助技術各論	60	60	○	
演習・実習 (330h)				
精神保健福祉援助演習	60	60	○	
精神保健福祉援助実習	270	270	○	
合計	1,110	780	18科目	9科目

大学等においては三科目のうち一科目

※…読み替え可能科目

I - ② シラバスの内容と想定される教育内容の例

※ 時間数については、一般養成施設の場合

※ 共通科目については、平成21年4月より改正された社会福祉士のシラバス内容を掲載

専門
科目

1. 精神疾患とその治療(60時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。 	① 精神疾患総論(代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神医学、医療の歴史と現状 ○ 精神現象の生物学的基礎 ○ こころの概念・モデル ○ 精神障害の概念 ○ 精神疾患の成因と分類 ○ 代表的な疾患 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳の構造 ・ 心の生物学的理解、精神分析から見た心 ・ 健康、精神症状、精神疾患、精神疾患に由来する障害 ・ 三大分類、国際分類法 ・ 統合失調症、気分障害、ストレス関連障害、認知症、発達障害等
	② 精神疾患の治療	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神症状と状態像 ○ 診断の手順と方法 ○ 身体的検査と心理的検査 ○ 精神科薬物療法 ○ 電気けいれん療法などの身体療法 ○ 精神療法 	

シラバスの内容		想定される教育内容の例		
ねらい	含まれるべき事項			
	③ 精神科医療機関の治療構造及び専門病棟	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科リハビリテーション ○ 環境・社会療法 ○ ささまざまな専門病棟 		
	④ 精神科治療における人権擁護	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神科治療と入院形態 ○ インフォームド・コンセント ○ 隔離、拘束のあり方 ○ 精神科救急医療システムとその対象 ○ 移送制度による入院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定医、病棟特性、処遇 	
	⑤ 精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 報告、連絡、相談、カンファレンス等 		
	⑥ 精神医療と福祉及び関連機関との間における連携の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 治療への導入に向けた支援 ○ 再発予防のための支援 ○ 退院促進の支援 ○ 医療観察法対象患者の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集中的包括的ケアマネジメント(ACT) 	

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 	① 精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要	<ul style="list-style-type: none"> 社会構造の変化と新しい健康観 精神の健康、精神疾患、身体・精神疾患に由来する障害 ライフサイクルと精神の健康 生活習慣と精神の健康 ストレスと精神の健康 精神の健康に関する心的態度 予防の考え方 さまざまな活動 精神保健活動の三つの対象 	<ul style="list-style-type: none"> 高次脳機能障害 破綻の現れ方、燃え尽き、心の傷 否認、受容、回復 カプランの考え方 老人保健 支持的精神保健
	② 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 現代日本の家族の形態と機能 結婚生活と精神保健 育児や教育をめぐる精神保健 病気療養や介護をめぐる精神保健 社会的ひきこもりをめぐる精神保健 家庭内の問題を相談する機関 保健所等の精神保健福祉士の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 非婚、DV 子育て不安、児童虐待 発達障害 家族の燃え尽き、高齢者虐待

シラバスの内容		想定される教育内容の例		
ねらい	含まれるべき事項			
	③ 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴 教員の精神保健 関与する専門職と関係法規 保健所等の精神保健福祉士の役割 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、学校における暴力、自殺 不登校、学級崩壊 非行問題(少年犯罪、薬物依存、10代の妊娠)等 学校保健法など 	
	④ 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 現代日本の労働環境 うつ病と過労自殺 飲酒やギャンブルに関する問題 心身症と生活習慣病 職場内の問題を解決するための機関及び関係法規 保健所等の精神保健福祉士の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 労働基準法、労働安全衛生法など 	
	⑤ 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 災害被災者、犯罪被害者の精神保健 ニートや貧困問題と精神保健 ホームレスと精神保健 性同一性障害と精神保健 他文化に接することで生じる精神保健上の問題 		
	⑥ 精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割	<ul style="list-style-type: none"> アルコール問題に対する対策 		13

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
		○ 薬物依存対策 ○ うつ病と自殺防止対策 ○ 認知症高齢者に対する対策 ○ 社会的ひきこもりに対する対策 ○ 災害時の精神保健に対する対策	
	⑦ 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題	○ 関係法規 ○ ネットワークづくり ○ 資源開発 ○ 精神保健に関する調査 ○ 精神保健に関わる人材育成 ○ 国民の精神障害観 ○ 施設コンフリクト	・ 地域保健法、母子保健法など
	⑧ 精神保健に関する専門職種(保健師等)と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携	○ 国の機関とその役割 ○ 精神保健に係る法規 ○ 保健師等の役割と連携 ○ 地域精神保健に係わる行政機関の役割及び連携 ○ 学会や啓発団体	・ 精神保健福祉センター、保健所、市町村(保健センター) ・ いのちの電話、アルコール問題、精神衛生会 ・ 家族会、当事者の会
	⑨ 諸外国の精神保健活動の現状及び対策	○ 主なセルフヘルプグループ ○ 世界の精神保健の実情 ○ WHOなどの国際機関の活動 ○ 諸外国の精神保健医療の実情	
			14

専門科目 **3. 精神保健福祉相談援助の基盤 I (30時間)**

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士の役割(総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む)と意義について理解する。 社会福祉士の役割と意義について理解する。 相談援助の概念と範囲について理解する。 相談援助の理念について理解する。 	① 精神保健福祉士の役割と意義	○ 精神保健福祉士法 ○ 精神保健福祉士の専門性 ○ 精神保健福祉士の専門職倫理と倫理的ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> 法制度見直しの背景 定義、義務 その他 <ul style="list-style-type: none"> 日本精神保健福祉士協会倫理綱領 国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)倫理綱領 倫理的ジレンマ その他
	② 社会福祉士の役割と意義	○ 社会福祉士及び介護福祉士法 ○ 社会福祉士の専門性	<ul style="list-style-type: none"> 定義、義務 法制度見直しの背景 その他
	③ 相談援助の概念と範囲	○ ソーシャルワークに係る各種の国際定義 ○ 社会福祉士・精神保健福祉士が行うソーシャルワークの形成過程	<ul style="list-style-type: none"> 国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の定義 その他 慈善組織活動 セツルメント運動 その他
	④ 相談援助の理念	○ 人権尊重 ○ 社会正義 ○ 利用者主体本位 ○ 尊厳の保持 ○ 権利擁護 ○ 自立支援 ○ 社会的包摂 ○ ノーマライゼーション	
			15

4. 精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ(30時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者を対象とした精神保健福祉士が行う相談援助の対象基本的考え方と相談援助技術の概要について理解する 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する 	<p>① 精神障害者を対象とした精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方と相談援助技術の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 精神障害者を対象とした相談援助活動の目的・価値・意義・内容・原則 ○ 保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方 ○ 相談援助技術の概要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象、目的、価値、意義、内容、原則 ・ その他
	<p>② 相談援助に係わる専門職(精神科病院、精神科診療所を含む)の概念と範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関(精神科病院、精神科診療所を含める)における専門職 ○ 福祉行政・関連行政機関等における専門職 ○ 民間の施設・組織における専門職 	<ul style="list-style-type: none"> △ 相談援助に関する概念の整理 △ 個別に相談援助する技術 △ 集団を活用した相談援助技術 △ 地域を基盤に置いた相談援助技術 △ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師、薬剤師、看護師、作業療法士、理学療法士、臨床心理技術者、管理栄養士 ・ その他 ・ 福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司 ・ 保健所の医師、保健師、作業療法士 ・ 保護観察所の社会復帰調整官 ・ 労働行政機関等の障害者職業カウンセラー、職場適応援助者(ジョブコーチ)等 ・ その他 ・ 施設長、生活指導員、社会福祉協議会の職員、地域包括支援センターの職員

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	<p>③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相談援助における権利擁護の概念と範囲 ○ 精神障害者の人権擁護と精神保健福祉士の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談支援専門員、サービス管理責任者、居宅介護従事者 ・ その他 ・ 自己決定、意思決定能力 ・ 権利擁護システム
	<p>④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携(チームアプローチ含む)の意義と内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的かつ包括的な援助の意義と内容 ○ 多職種連携(チームアプローチ)の意義と内容 	

シラバスの内容		想定される教育内容の例		
ねらい	含まれるべき事項			
<ul style="list-style-type: none"> 精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション(精神科専門療法を含む)の知識と技術及び活用する方法について理解する。 精神障害者を対象とした相談援助技術(個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む)の実際展開について理解する。 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。 	① 精神保健医療福祉の歴史と動向	○ わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向		
	② 精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	○ 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	○ 精神保健福祉士における活動の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 社会防衛 Y問題 権利擁護 自立生活支援
	③ 精神科リハビリテーションの概念と構成	○ 精神障害者支援の理念	○ 精神保健医療福祉領域における支援対象者	<ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーション ストレングス リカバリー レジリエンス
		○ 精神障害者の人権	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害の概念 精神障害者の定義 精神障害者の特性 その他(労働、司法、教育領域における対象者) その他(自殺対策基本法、発達障害者支援法等の対象者) 	
		○ 精神科リハビリテーションの概念	<ul style="list-style-type: none"> 国連原則 欠格条項 インフォームドチョイス 権利擁護システム 	
		○ 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則	<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションの歴史と概念 リハビリテーションの理念、意義と基本原則 	
		○ 精神科リハビリテーションの構成と展開	18	

シラバスの内容		想定される教育内容の例		
ねらい	含まれるべき事項			
<ul style="list-style-type: none"> 地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む)の実際について理解する。 地域相談支援における生活を支援する保健・医療・福祉等機関(通院・在宅医療サービス)と連携の包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と実際展開について理解する。 精神障害者の相談援助に係る社会調査の意義、目的、概要及び活用について理解する。 	④ 精神科リハビリテーションのプロセス	○ リハビリテーション計画		
	⑤ 医療機関における精神科リハビリテーション(精神科専門療法を含む。)の展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割	○ アプローチの方法	○ 精神専門療法	<ul style="list-style-type: none"> 作業療法及びレクリエーション療法、集団精神療法、行動療法、認知行動療法、SST(生活技能訓練)
	⑥ 精神障害者の支援モデル	○ 家族教育プログラム	○ 家族教育プログラム	<ul style="list-style-type: none"> 心理教育
		○ 精神科デイ・ケア等		
		○ アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> 精神科退院前訪問指導、精神科訪問看護・指導 	
		○ チーム医療の概要		
		○ 多職種との協働・連携		
		○ 代表的な実践モデル	<ul style="list-style-type: none"> 治療モデル(医学モデル、欠陥モデル) 生活モデル(環境モデル、エコシステムモデル、社会モデル) ストレングスモデル 	
		○ 受理面接(インテーク)		
		○ 契約		
		○ 課題分析(アセスメント)		
		○ 支援の計画(プランニング)		
		○ 支援の実施(インターベンション)		
		○ 経過観察(モニタリング)		
		○ 効果測定と支援の評価		
		○ 終結とアフターケア		
	⑧ 相談援助活動のための面接技術	○ 面接を効果的に行う方法	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリング技法 	
			19	

シラバスの内容		想定される教育内容の例		
ねらい	含まれるべき事項			
	⑨ 相談援助活動の方法展開 (医療施設、社会復帰施設、地域社会を含む)	○ 個別支援の実際と事例分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病及び障害に配慮した個別支援展開(危機介入アプローチ、生活支援の援助技術) ・ 精神障害者の主体性の尊重 ・ 個別支援の実際と適用分野 	
		○ 集団を活用した支援の実際と事例分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病及び障害に配慮した集団支援の展開 ・ 集団を活用した支援の実際と適用分野[デイケアとグループワーク、SST(生活技能訓練)、セルフヘルプグループ(自助グループ)] 	
		○ 具体的事例検討		
	⑩ 家族調整・支援の実際と事例分析	○ 精神障害者と家族との関係		<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族療法的アプローチ
		○ 家族支援の方法		
		○ 具体的事例検討		
	⑪ スーパービジョンとコンサルテーション	○ スーパービジョンの意義、方法展開		
		○ コンサルテーションの意義、方法、展開		
	⑫ 地域移行の対象及び支援体制	○ 地域移行支援の対象		
		○ 地域移行の体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科病院の体制 ・ 地域移行支援の体制 	
		○ 精神保健福祉士の役割と多職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉士の業務内容 ・ 精神保健福祉士の専門性と役割 ・ 多職種連携(チームアプローチ) ・ ACT、PACT 	
		○ 地域移行に係る組織や機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援協議会 	
○ 地域移行を推進する制度、施策				
○ 具体的事例検討				

20

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	⑬ 地域を基盤にした相談支援援助の主体と対象(精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む)	○ 地域相談支援援助の主体	
		○ 地域相談支援援助の対象	
		○ 地域相談支援援助の体制	
		○ 具体的事例検討	
	⑭ 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ネットワーク ・ 地域生活支援事業と訪問援助 ・ 家族会および自助グループ ・ 精神保健ボランティアの育成と活用
	⑮ 精神障害者のケアマネジメント	○ ケアマネジメントの原則	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適用と対象 ・ 人権への配慮
		○ ケアマネジメントの意義と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジメントの意義と方法 ・ 関係機関との連携
		○ ケアマネジメントのプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ インテーク ・ ニーズの把握とその評価 ・ 目標設定と計画的実施 ・ 包括的サービスの実現 ・ 評価
		○ チームケアとチームワーク	
		○ 具体的事例検討	
	⑯ 地域を基盤にした支援とネットワークキング	○ 地域を基盤にした支援の概念と基本的性格	
○ 地域を基盤にした支援の具体的展開		<ul style="list-style-type: none"> ・ ノーマライゼーションの推進と住民参加 ・ 社会資源の活用と開発 ・ 地域社会における連携と調整機能 ・ 家族会、自助グループの支援 ・ ボランティア等地域マンパワーの育成と活用 ・ 地域生活支援活動 	
○ 具体的事例検討			

21

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	⑭ 関連組織・機関等の概要と専門職との連携	○ 福祉サービス提供施設・機関	<ul style="list-style-type: none"> 社会復帰施設 グループホーム 小規模作業所 相談支援事業所 地域活動支援センター 就労・生活支援センター その他
	⑮ 医療機関、通院、在宅医療サービスとの連携の意義と実際	○ 行政機関等	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉センター 保健所 市町村 ハローワーク その他
		○ 精神科病院、精神科診療所等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 主治医、精神保健福祉士、外来看護師 地域連携部門、マイケア部門、訪問看護部門(ステーション含む) 包括的支援体制の理念 ソーシャルインクルージョン 諸外国の実践例 わが国の実践例
	⑯ 社会調査の概要(意義、目的、倫理、方法)と活用	○ 社会調査の意義と目的	<ul style="list-style-type: none"> 根拠にもとづいた実践
		○ 社会調査の対象	<ul style="list-style-type: none"> 社会調査における個人情報保護
		○ 社会調査における倫理	<ul style="list-style-type: none"> 全数調査と標本調査 横断調査と縦断調査 自形式調査と他形式調査 測定の水準、信頼性と妥当性 質問紙の作成方法と留意点 調査票の配布と回収 集計と分析
		○ 量的調査の方法と活用	<ul style="list-style-type: none"> 観察法 面接法 記録の方法と留意点 データの整理と分析
		○ 質的調査の方法と活用	
		○ ICTの活用方法	

22

シラバスの内容		想定される教育内容の例		
ねらい	含まれるべき事項			
<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者の相談援助活動と法(精神保健福祉法)との関わりについて理解する。 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。 更生保護制度と医療観察法について理解する。 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。 	① 精神保健福祉法の意義と内容	○ 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割	<ul style="list-style-type: none"> 法律の目的、地方精神保健福祉審議会及び精神医療審査会、精神保健指定医、入院形態、精神障害者保健福祉手帳 その他 	
	② 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス	○ 障害者基本法と精神障害者施策との関わり	○ 障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者が利用する福祉サービスに特化した国・都道府県・市町村の制度や事業
	③ 精神障害者に関連する社会保障制度の概要	○ 医療保険制度の意義と内容	○ 介護保険制度、の意義と内容	<ul style="list-style-type: none"> 所得保障(障害年金・手当・生活保護・労災・その他の災害補償)、税金控除
	④ 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働	○ 行政組織と民間組織の役割と実際		<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体、社会福祉法人、特定非営利活動法人、社会福祉協議会、民政委員、児童委員、自治会、ボランティア組織、企業、 その他

23

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
		○ 福祉サービス提供施設・機関	・ 社会復帰施設、グループホーム、小規模作業所、相談支援事業所、地域活動支援センター、就労・生活支援センター、 ・ その他
		○ インフォーマルな社会資源の役割と実際	・ 家族、セルフヘルプグループ、ピアヘルパー ・ その他
		○ 専門職や地域住民の役割と実際	・ 精神保健福祉士、社会福祉協議会の地域福祉専門活動委員、介護相談員、認知症サポーター ・ その他
	⑤ 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係	○ 更生保護制度とその担い手	
	⑥ 更生保護制度における関係機関や団体との連携	○ 司法・医療・福祉の連携 ○ 保護観察所の役割と実際	
	⑦ 医療観察法の概要	○ 医療観察法の意義と内容	・ 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律
		○ 社会復帰調整官の役割と実際	
	⑧ 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割	○ 精神保健参与員の役割と実際 ○ 入院者・通院者に関する処遇	・ 指定入院医療機関、指定通院医療機関

24

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	⑨ 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用	○ 社会調査の意義と目的	・ 根拠にもとづいた実践
		○ 社会調査の対象	
		○ 社会調査における倫理	・ 社会調査における個人情報保護
		○ 量的調査の方法と活用	・ 全数調査と標本調査 ・ 横断調査と縦断調査 ・ 自形式調査と他形式調査 ・ 測定の水準、信頼性と妥当性 ・ 質問紙の作成方法と留意点 ・ 調査票の配布と回収 ・ 集計と分析
		○ 質的調査の方法と活用	・ 観察法 ・ 面接法 ・ 記録の方法と留意点 ・ データの整理と分析
		○ ICTの活用方法	

7. 精神障害者の生活支援システム(30時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動(その他の日中活動支援を含む)について理解する。 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。 	① 精神障害者の概念	○ 精神障害の特性と人としての一般性	
	② 精神障害者の生活の実際	○ 精神障害者の生活実態	
	③ 精神障害者の生活と人権	○ 精神障害者の生活支援の理念と概要	
	④ 精神障害者の居住支援	○ 地域生活における精神障害者の人権	
		○ 住居支援制度の概要	
		○ 住居支援に係わる専門職の役割と連携	
⑤ 精神障害者の就労支援	○ 住居支援の実際		
	○ 住居支援における近年の動向と課題		
	○ 関係する組織、団体、専門職、自助組織等との連携	・ 国・都道府県・市町村の役割と連携	
	○ 就労支援制度の概要	・ 障害者雇用促進法、ジョブガイダンス	
⑥ 精神障害者の生活支援システム	○ 就労支援に係わる専門職の役割と連携		
	○ 就労支援の実際		
	○ 就労支援における近年の動向と課題		
	○ 関係する組織、団体、専門職、自助組織等との連携	・ 国・都道府県・市町村の役割と連携、ハローワークとの連携	
	○ 精神障害者の自立と社会参加		

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
		○ 福祉的就労をはじめとする一般就労以外の生活支援の実際	
		○ ソーシャル・サポートネットワーク	
	⑦ 市町村における相談援助	○ 精神保健福祉相談員	
⑧ その他の行政機関における相談援助	○ 都道府県、保健所、精神保健福祉センター等における精神保健福祉士の機能と役割		

1. 人体の構造と機能及び疾病(30時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<p>・ 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</p> <p>・ 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解する。</p> <p>・ リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>※ 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	① 人の成長・発達	○ 身体の成長・発達	
	② 心身機能と身体構造の概要	○ 精神の成長・発達	
	③ 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要	○ 老化	
		○ 人体部位の名称	・ 頭部、頸部、胸部、背部、腹部、四肢、体幹、脊柱、血管 ・ その他
		○ 各器官等の構造と機能	・ 血液、呼吸器、消化器、泌尿器、循環器、支持運動器、内分泌器、神経系、感覚器、皮膚、生殖器 ・ その他
		○ 国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷	
		○ 心身機能と身体構造、活動、参加の概念	
		○ 環境因子と個人因子の概念	
		○ 健康状態と生活機能低下の概念	

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	④ 健康の捉え方	○ 健康の概念	・ WHO憲章による健康の定義 ・ その他の定義
	⑤ 疾病と障害の概要	○ 疾病の概要	・ 悪性腫瘍、生活習慣病、感染症、神経・精神疾患、先天性・精神疾患、難病 ・ その他
		○ 障害の概要	・ 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、発達障害、認知症、高次脳機能障害、精神障害 ・ その他
		○ 精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM-IV)の概要	・ 精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM-IV) ・ その他
⑥ リハビリテーションの概要	○ リハビリテーションの概念と範囲	・ リハビリテーションの定義、目的、対象、方法 ・ その他	

2. 心理学理論と心理的支援(30時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 日常生活と心の健康との関係について理解する。 心理的支援の方法と実際について理解する。 ※ 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。	① 人の心理学的理解	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心と脳 ○ 情動・情緒 ○ 欲求・動機づけと行動 ○ 感覚・知覚・認知 ○ 学習・記憶・思考 ○ 知能・創造性 ○ 人格・性格 ○ 集団 ○ 適応 ○ 人と環境 	
	② 人の成長・発達と心理	○ 発達の概念	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の定義、発達段階、発達課題、生涯発達心理、アタッチメント、アイデンティティ ・ 喪失体験 ・ その他
	③ 日常生活と心の健康	○ ストレスとストレッサー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストレッサー ・ コーピング ・ ストレス症状(うつ症状、アルコール依存、燃え尽き症候群(バーンアウト)を含む。) ・ ストレスマネジメント ・ その他

30

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	④ 心理的支援の方法と実際	○ 心理検査の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格検査、発達検査、知能検査、適性検査 ・ その他
		○ カウンセリングの概念と範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウンセリングの目的、対象、方法 ・ ピアカウンセリングの目的、方法 ・ その他
		○ カウンセリングとソーシャルワークとの関係	
		○ 心理療法の概要と実際(心理専門職を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神分析、遊戯療法、行動療法、家族療法、ブリーフ・サイコセラピー、心理劇、動作療法、SST(生活技能訓練) ・ 臨床心理士 ・ その他

31

3. 社会理論と社会システム(30時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 生活について理解する。 人と社会の関係について理解する。 社会問題について理解する。 <p>※ 精神保健福祉士に必要な内容となるよう留意すること。</p>	① 現代社会の理解	○ 社会システム	<ul style="list-style-type: none"> 社会システムの概念、文化・規範、社会意識、産業と職業、社会階級と社会階層、社会指標 その他
		○ 法と社会システム	<ul style="list-style-type: none"> 法と社会規範 法と社会秩序 その他
		○ 経済と社会システム	<ul style="list-style-type: none"> 市場の概念 交換の概念 労働の概念 就業形態 その他
		○ 社会変動	<ul style="list-style-type: none"> 社会変動の概念、近代化、産業化、情報化 その他
		○ 人口	<ul style="list-style-type: none"> 人口の概念、人口構造、人口問題、少子高齢化 その他
		○ 地域	<ul style="list-style-type: none"> 地域の概念、コミュニティの概念、都市化と地域社会、過疎化と地域社会、地域社会の集団・組織 その他

32

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	② 生活の理解	○ 社会集団及び組織	<ul style="list-style-type: none"> 社会集団の概念、第一次集団、第二次集団、ゲゼルシャフト、ゲマインシャフト、アソシエーション、組織の概念、官僚制 その他
		○ 家族	<ul style="list-style-type: none"> 家族の概念、家族の変容、家族の構造や形態、家族の機能 世帯の概念 その他
		○ 生活の捉え方	<ul style="list-style-type: none"> ライフステージ 生活時間 消費 生活様式、ライフスタイル 生活の質 その他
	③ 人と社会の関係	○ 社会関係と社会的孤立	
		○ 社会的行為	
		○ 社会的役割	
		○ 社会的ジレンマ	
	④ 社会問題の理解	○ 社会問題の捉え方	<ul style="list-style-type: none"> 社会病理、逸脱 その他
		○ 具体的な社会問題	<ul style="list-style-type: none"> 差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、公害、社会的排除、ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、環境破壊 その他

33

4. 現代社会と福祉(60時間)

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ・ 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・ 福祉政策の課題について理解する。 ・ 福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。)について理解する。 ・ 福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む。)の関係について理解する。 ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 	① 現代社会における福祉制度と福祉政策	○ 福祉制度の概念と理念	
	○ 福祉政策の概念と理念		
	○ 福祉制度と福祉政策の関係		
	○ 福祉政策と政治の関係		
② 福祉の原理をめぐる理論と哲学	○ 福祉の原理をめぐる理論		
○ 福祉の原理をめぐる哲学と倫理			
③ 福祉制度の発達過程	○ 前近代社会と福祉	・ 救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助	・ その他
○ 近代社会と福祉		・ 第二次世界大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉	・ その他
○ 現代社会と福祉		・ 新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義	・ その他
④ 福祉政策におけるニーズと資源	○ 需要とニーズの概念	・ 需要の定義、ニーズの定義	・ その他
○ 資源の概念		・ 資源の定義	・ その他

シラバスの内容		想定される教育内容の例	
ねらい	含まれるべき事項		
	⑤ 福祉政策の課題	○ 福祉政策と社会問題	・ 貧困、孤独、失業、要援護(児童、高齢、障害、寡婦)、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク
	○ 福祉政策の現代的課題		・ 社会的包摂、社会連帯、セーフティネット
	⑥ 福祉政策の構成要素	○ 福祉政策の課題と国際比較(国際動向を含む。)	
	○ 福祉政策の論点		・ 効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択とバタナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、福祉政策の視座
	○ 福祉政策における政府の役割		
	○ 福祉政策における市場の役割		
	○ 福祉政策における国民の役割		
	○ 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価		
	○ 福祉供給部門		・ 政府部門、民間(営利・非営利)部門、ボランティア部門、インフォーマル部門
			・ その他